経営理念		〈経営目標〉一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈保育目標〉すくすく おれんじ げんきなこ 〈子ども像〉・元気に遊べる子ども・自分の思いをすなおに出せる子ども・優しく心豊かな子ども・意欲のある子ども 〈保育所像〉・子どもの笑顔が輝く保育所・子どもの育ちを支える保育所・保護者や地域から信頼される保育所 ・幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切に作る保育士・意欲を育む環境を考える保育士・チームワークを大切に作る保育士・保護者とより良い協力関係を築く保育士・専門性の向上に努める保育士					
中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
職員の育成・資質向上や運営	職務分担が適切に機能し、子ども達のために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	クラスに関わる職員と保育を伝え合い保育が繋がる為の引き継ぎを行う(報告・連絡・相談)	早朝・延長担当職員を含め職員同士が意識して声をかけ合い、伝え忘れや聞いていない事があれば自ら情報を聞いたり、ホワイトボードを活用して伝え合うことを意識して取り組むことができた。カリキュラム会や終礼だけでなく、子どもや保護者の様子について話し合い対応を考えたり、保育のねらいや子どもへの関りで大切にしていることなど共有することで、子どもの変化や成長を感じる事ができた。子どもの育ちや発達についての深い話まではできなかった。	B	時間差出勤もあり、難しい部分でもあるが、どの保育者であっても、1人の子どもに対して共通理解して同じ関わり方することは大事なことで、今後も継続して取り組んでいってもらいたい。	B	子どもの育ちや発達について深く話し合い、子どもの理解や保護者対応に活かせるよう引き続き、保育の伝え合いが確実になるように意識して、声のかけあい、ボードの活用、終礼などで報告・連絡相談を行い取り組んでいく。
	園内外の研修に意欲的に参加する。	今年度は、ティーチャーズトレーニングの研修園となったことや新規採用保育者研修や保育者研修Ⅱ期などの学びの機会が多くあり、全職員が園内外の研修に主体的に参加し、自身のスキル向上に努めた。学んだことを報告することで、まとめ確認ができ自分のものとなった。研修に参加できなかった職員も掲示してある協議資料に目を通し学びを確認することができた。研修や研究協議で学んだことを積極的に実践に活かし、子どもの姿を通して変化や育ちを実感し、新たな気づきを得る事ができたが、まだ十分ではなかった。	B	忙しい中、全職員で取り組んだというところは評価できる。今後を期待する。	B	研修で学んだ知識や技能を保育実践で行い、専門性の向上をめざし全職員が主体的に学び合う環境を整備していく。	
保育・教育活動の充実	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育活動を展開し、感性が育つための環境構成を探索する。	子どもの発達過程について学びを深め、触ってみたい、遊んでみたいと思えるような保育環境を整える。	園内の環境について、毎月のカリキュラム会で話し合い見直しができる。子どもの姿や興味関心に合わせて遊びの内容や環境も整えてきた。子どもの姿から必要に応じて再構成も行うことができた。子どもの発達過程や育ちを把握した環境構成はまだ十分ではなく子どもの発達を促したり、特性を理解した保育実践への資質向上の取り組みは引き続き必要である。	B	部屋の環境や遊びや制作が年齢ごとに工夫されていることが感じられる。発達の捉えは難しいところであり、今後も取り組んでいかなければならないことと考える。	B	今後も子どもの興味関心や発達を捉え、遊びや環境の準備をしていけるように、研修等も取り入れながら取り組んでいく。 計画的に教材研究を行い、園全体で共有していく。
		年齢にあった本選びや読み聞かせの場を設定するなど読み聞かせ活動に取り組む。	絵本は、表紙が見えるように設置し、自分で絵本を選び、手に取れるようにしている。クラス便り、絵本日よりでは、年齢別のお気に入り絵本を紹介し、子ども達が自分でページをめくって楽しんでいる姿など様子を知らせた。参観日では、貸し出し絵本についてや読み聞かせの大切さについて話をし、親子で読み聞かせを楽しんでもらう時間をつくった。また、玄関には子どものお気に入りの絵本や季節の絵本を並べ紹介するコーナーを設けることで、迎え時に絵本を手取る保護者の姿も見られた。3歳児は、毎月2回地域のなんじゃもんじゃさんに読み聞かせに来ていただき、読んでもらうことを楽しみにしている。職員による自己評価では、80%以上の子どもが絵本を楽しんでいると捉えている。	A	・絵本を読むことは、言葉を習得し思いを伝える事につながるが、子どもと関わっている時に言葉を知らないと感じる。本の大切さを実感しているので、保育所からの絵本の取り組みは大事な事である。	A	各保育室の絵本コーナーは、年齢に応じて子どもが自分で手に取れる場所に表紙が見えるように置くなど環境を整えておく。 絵本に興味をもち、主体的に絵本と関わる子ども達の姿を保護者に発信し共有、啓発していく。
		豊かな感性を育むための園庭での菜園活動や環境	昨年度は、栽培が得意な職員を中心に行ってきたが、今年度は職員が菜園栽培について知ることから始め、それぞれが調べてきたことをグループでまとめ共有し、いつでも見えるように休憩室に掲示した。子ども達が関心もてるように、保育室前にプランターを置くと、2、3歳児は、自分達が種・苗を植えたことで栽培物の様子や変化に興味深く観察し収穫した野菜は、苦手な物でも食べようとする子どもが多く見られた。0、1歳児は収穫を見学し触れたり、においを嗅いだり、味わったり、野菜をスタンプにして遊ぶなど五感を働かせて関わる事ができた。間引くことができなかつたり収穫が遅くなり花が出てしまつたりした栽培物もあるなど反省点もあった。	B	得意な先生だけでなく全職員で取り組むことが良いと思う。小さい頃から栽培物そのものを見せて、時期が終わったら枯れていく様子を見せる事のできる環境があり、素晴らしい学びである。小学校への学習でも体験から考えることにつながると思う。子ども達も送迎時にプランターの栽培物を見て、自分から話をしている。	B	継続して栽培に関われるように計画を立て、引き続き、収穫のめやすなど栽培に関する知識や技術の習得に努める。 探索が大好きな子ども達が、五感(見る・かぐ・触る・聞く・味わう)を刺激する食に関する関わりを大切に実践を進める。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	遊びのなかの学びが伝わる発信を行う。	子どもの姿を基に、経験していることや育ちがわかるように動画を作成し、参観日に伝えたり、保育ドキュメンテーションを掲示したり、クラス便りとは別に、写真付きの便りを作成し個人の連絡帳に貼り、保育所での子どもの様子を分かりやすく伝える工夫ができた。 【保護者アンケート設問】お子さんの保育所での様子や成長の姿、保育で大事にしていることなどを分かりやすくおたよりやドキュメンテーションなどで伝えているには、そう思う87%ややそう思う12%あまりそう思わない1%であった。遊びの中の学びを伝えることは十分でなかった。	B	連絡ノートに子どもの写真を貼ったミニ便りなどの工夫をすることで子どもの様子が分かりよかつた。今後も色々なツールで発信の工夫をしていってほしい。	A	子どもの日々の様子を伝えたり、保育で大切にしていることや学びを一人一人が意識し、保育の様々な機会を活用したり、発信の方法を考えたりしながら、工夫を継続して行っていく。 生活や遊びのなかの学びを伝えていく保育ドキュメンテーションの取り組みを行っていく。
		地域の自然・人・場所・行事などを活用して地域に親しみ、地域とつながれる保育を行う。	積極的に園外に出かけて地域の伝承文化や自然に触れたり、季節を感じたりできるよう保育に取り入れる工夫ができた。また、職員間で情報を伝え合いながら、地域の人との出会いの場を大切に考えて子ども達への言葉かけを行うことができた。その結果、子ども達は地域の人や獅子舞に関心をもち、自分から関わる姿も見られた。	A	獅子舞の話は今でもしているが、地域の協力が子ども達の豊かな経験につながっているため、今後も地域に親しみを感ぜられるような取り組みを期待する。	A	職員間で情報を伝え合い、話し合いながら、地域の人や伝承文化との出会いを大切に継続して取り組んでいく。また、保護者にも参観日や便りなどで地域のことを知ってもらい、親しみにつなげていけるよう努める。